

きたのはらいせき いなりまえつかぐん  
北野原遺跡・稲荷前塚群

きたのはらこふん  
北ノ原古墳

所在地：〔北野原遺跡・稲荷前塚群〕龍ヶ崎市大塚町 1795-4 ほか 〔北ノ原古墳〕龍ヶ崎市薄倉町 2361-7

調査期間：令和7年4月1日～11月30日

調査面積：〔北野原遺跡・稲荷前塚群〕3,162㎡ 〔北ノ原古墳〕263㎡

委託者：茨城県竜ヶ崎工事事務所

調査原因：主要地方道美浦栄線バイパス整備事業

調査機関：公益財団法人茨城県教育財団（龍ヶ崎事務所）

Tel: 029-225-6587 <https://www.ibaraki-maibun.org>



HP



X

## 遺跡の概要

北野原遺跡・稲荷前塚群は、小野川右岸の低地に面した標高約10mの台地先端部に、北ノ原古墳は同じ台地の標高約20mの台地上に位置しています。

令和7年度4月から当財団が調査を行い、北野原遺跡・稲荷前塚群では、縄文時代・弥生時代・古墳時代・中世・近世まで断続的に利用され、北ノ原古墳は、古墳時代後期に造られた古墳であることが分かりました。



北野原遺跡・稲荷前塚群、北ノ原古墳 遺跡近景（南から）

## 調査の概要

### 【北野原遺跡】

確認した主な遺構は、弥生時代の竪穴建物跡1棟、古墳時代前期の竪穴建物跡1棟、後期の竪穴建物跡3棟、そのほか近世の整地を伴う盛土遺構や、中近世と推測される炭窯などです。古墳時代後期の竪穴建物跡からは、5世紀後葉頃の須恵器の坏やハソウが出土しています。

### 【稲荷前塚群】

当塚群は、4基で構成される塚群として遺跡登録されています（上写真の1号塚の東側に2号塚があります）。時期は、すべて近世と推測されており、このうち3号塚の塚上では江戸時代の石祠が確認されています。今回の調査では、塚群の4号塚が調査の対象となり、古墳時代前期の古墳であることが分かり、4号墳と名称変更しました。また、新たに3基の古墳を確認し調査しました。

### 【北ノ原古墳】

平成8年の確認調査では、周溝と埋葬施設を構築した石材が小さく割れた状況で確認されましたが、遺物は出土していませんでした。今回の調査では、須恵器などの遺物が出土しています。



この資料は調査中の情報であり、最終的な結果ではありません。  
引用・掲載はご遠慮願います。

## 稲荷前塚群の古墳

今回、特筆されるのは、古墳時代の前方後方墳2基(4・5号墳)と方墳2基(6・7号墳)です。

### ★各古墳の規模などについて

前方後方墳2基は、前方部の規模が小さいことから、古い様相を示す墳形です。

【4号墳】 細い微高地の先端部に立地しており、小野川水系に後方部を向けています。規模は、長軸21.4m、短軸15.3m、墳丘高さ2.0m、周溝幅3.0m、深さ0.4mです。

【5号墳】 4号墳と同様に小野川水系に後方部を向け、4号墳の周溝の一部を掘り込んで、その南側に築造されています。規模は、長軸17.4m、短軸12.2m、墳丘高さ1.6m、周溝幅2.3m、深さ1.0mで、4号墳よりやや小ぶりです。

方墳2基は、5号墳の周溝埋土を掘り込んでいることから、4・5号墳よりも新しい時期に造られたと考えられます。墳丘盛土や埋葬施設は確認できませんでした。

【6号墳】 規模は、長軸5.2m、短軸5.1m、周溝幅0.64m、深さ0.33mです。

【7号墳】 規模は、長軸5.1m、短軸3.4m、周溝幅0.6m、深さ0.23mです。

### ★各古墳の出土遺物について

今回4号墳・5号墳から出土した壺形土器には、底部や体部に穴があげられていることから、マツリで使用されたと考えられます。なお、6号墳・7号墳からは、遺物は出土しませんでした。

【4号墳】 周溝内から土師器の壺、小型鉢、高坏、器台などが、墳頂上から転げ落ちた状態で出土しました。壺には、器形に弥生土器の特徴を残し、体部を丁寧に磨き赤く塗られたものもあります。また、器台には、北陸地方の特徴をもつ結合器台も出土しています。この結合器台は、坏部と脚部が周溝内でも離れた場所から別々に出土したものが接合しました。

【5号墳】 大小の土師器の壺が出土しました。底部や体部に穴があげられていることから、これらも4号墳と同様にマツリに使用されたものと考えられます。

出土した土器の時期は、特徴から3世紀の後葉から4世紀の前葉と考えられます。前方後方墳2基は、古墳の墳形からも県内では最古級の古墳です。同じ時期でも4号墳の周溝を一部壊して5号墳の周溝が掘られていることから、4号墳が築造され、次いで5号墳が築造されたことが分かりました。

## 北ノ原古墳の成果

北ノ原古墳は、墳丘周囲の土地が後世に改変されていることから、正確な墳形は分かりませんが、規模は直径約20mの円墳と推測されます。墳丘南側の裾部で、石材が全て抜き取られて壊された埋葬施設の掘方を確認しました。

出土遺物には、墓前に供えられたと考えられる在地産の須恵器坏と蓋のほか、湖西産須恵器の長頸瓶の破片が出土しています。時期は、これら出土遺物から推測して、7世紀代の古墳と推測されます。



埋蔵施設の掘方（写真上が南）

稻荷前塚群 第4号・第5号墳遺物出土状況



0 ※鉛直写真 scale=1/200 10m

